可茂農林事務所の普及活動状況　令和８年１月 29 日現在

ぎふ農業・農村を支える人材育成

■地域計画ブラッシュアップへ第１歩　可児市内農業者

【語り合う農業者の様子】

１月末、可児市内７会場において、令和７年３月に策定した地域計画をブラッシュアップするための協議の場が設けられ、各会場 20 名程度の農業者や地域住民が参加した。

行政・農協も交えて９地区の目標地図を眺めながら、将来の農地利用の姿を想像し、さまざまな意見を出し合う活気ある場となった。

参加者からは、「農地整備による大区画化」、「集落営農」など前向きな意見が出された。一方で、「担い手不足」、「機械更新ができない」など、早期に解決すべき課題も意見として挙げられた。

農林事務所は、関係機関と連携しながら農業者の意見に傾聴し、地域計画に磨きをかけられるよう支援していく。

（地域支援第二係）

■「なし･かき栽培講習会」で果樹の担い手を育成　美濃加茂市山之上地区果樹新規就農者、就農希望者他

農林事務所では、山之上果実農業協同組合と連携し、１月 18 日に果樹の新規就農者や就農希望者等を対象に、基本的な栽培技術の習得・向上や、果樹栽培の現場を理解してもらうため、「なし･かき栽培講習会」を開催した。

当日は、美濃加茂市山之上地区の新規就農者や経験の浅い生産者をはじめ、地区外からの就農相談者、農業大学校の学生など 21 人が参加した。

講習会では、農業経営課の革新支援専門員を講師に、なしおよびかき栽培において重要な作業である剪定を中心に、実演を交えながら解説を行った。

参加者からは、「剪定の基本的な技術を改めて確認できた」、「果樹栽培がどのように行われているのか実際に体験でき、理解が深まった」、などの感想が聞かれた。

農林事務所では、今後も持続可能な果樹産地づくりを目指して、新規就農者の確保および育成に向けた支援を継続する。

（園芸産地支援係）

ぎふ農畜水産物のブランド展開

■第36回美濃加茂市堂上蜂屋柿品評会の開催支援　堂上蜂屋柿・美濃加茂市堂上蜂屋柿振興会

【上位入賞者と審査員】

１月16日に美濃加茂市堂上蜂屋柿品評会が開催され、農林事務所は、出品された38点の干し柿の出来栄えを審査員として慎重に審査した。

今年度は、夏の高温・干ばつの影響もあり、日焼け果等がみられたが、防除の徹底により果樹カメムシ類の被害は少なく、過去５年で最も多い生産量となった。出品された堂上蜂屋柿はいずれも出来映えが素晴らしく、甲乙つけがたいものであり、受賞した 10 点は、岐阜市内の果実専門店へ高価格で販売された。

農林事務所は、今後も美濃加茂市の特産物として高い価値が得られるよう、研修会の開催等の支援を継続する。

（地域支援第一係）